

健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
鹿野 英生

今やかかりたくない病気のナンバー1は認知症ですが、「認知症」という単独の疾患はなく、物忘れを主体としたさまざまな疾患の総称です。認知症の症状を呈する疾患はとても多く、原因が特定されていないものの割合も多い現状ですが、慢性硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏症のように、手術によって「治る」あるいは服薬を続けることで認知症症状が消失する疾患もあります。アルツハイマー型やレビー小体型の認知症であれば、従来の抗認知症薬で進行を遅らせることができます。認知症と言われたからといっていきなり「恍惚の人」になってしまうわけではありません。

最近、抗アミロイドβ抗体薬という一歩踏み込んだ治療薬が上市されましたが、これらの適応は実質的に軽度認知障害のため、そこを過ぎてしまうと適応がなくなります。

しかし、仮に軽度認知障害を少し過ぎたとしても、軽度認知症のうちであれば従来型の抗認知症薬によって一時的に認知機能が改善し、軽度認知障害の領域に戻ることで、抗アミロイドβ抗体薬の適応になる場合

認知症の話

もあります。以前は「早期発見、早期絶望」と言われることもあった認知症ですが、取り巻く状況は変化しています。「どうせ治らない」「認知症と言われたらおしまいだ」と早々に諦めてしまうと時期を逸してしまうため、「ちょっと心配」と思ったら、ためらわずに検査することをお勧めします。

とはいえ、予防できるに越したことはありません。認知症発症リスクを軽減する統計的要因が示されており、45歳未満では教育、45歳〜65歳では難聴・高LDL血症・頭部外傷・高血圧・過度の飲酒・肥満・喫煙・うつ病・運動不足、66歳以上では社会的孤立・大気汚染・糖尿病・視力低下の計14項全てをクリアすると、発症リスクを45%軽減できるとされています。だいぶ地味な話ではありますが、少しでも認知症を遠ざけようということであれば、これらのいくつかでも対応してみる価値があります。

〔杜のホスピタル・あおば〕

／青葉区八幡



中小企業・小規模事業者のみなさまへ

事業承継のお悩みや疑問、
お気軽にご相談ください。

〔お問い合わせ〕

仙台商工会議所 経営支援グループ
TEL.022-265-8127

